

1. 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 (2017年4月～2018年3月)

バハウ サイモン ピーター
副島 健治

1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導に加えて、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、さらに富山大学の学生を海外に送り出すことなど、センターの求められる役割や機能、特に専任教員の業務は大きく拡大した。

本報では2017年4月～2018年3月において、日本語教育以外の部分に関わるセンターの主な業務について報告する。

2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。

相談者数は96人で、面談の件数はのべ125件であった。125件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(29件)、日本人学生に対する指導・助言(85件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(11件)であった。

海外留学相談については、センター内に「留学情報資料室」を設置して海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の留学にかかる相談にのっている。また、相談における主な希望留学先は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等の英語圏諸国、フィンランド、スイス、フランス、タイ、マレーシア、韓国、台湾、中国などであった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：96人

(内訳) 人文学部(38人)、人間発達科学部(15人)、経済学部(14人)、理学部(10人)、工学部(11人)、理工学教育部(6人)、医学薬学(2人)

3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

(1) 「日本事情」教育

「日本事情」の授業は、国際交流センターの日本語研修コースの科目として位置付けられているが、日本語研修コースは前期後期ともに不開講であったため開講されなかった。また日本語課外補講の科目としても開講されなかった。

(2) スタディ・エクスカーション

センターが主催して、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学

生と日本人学生との交流を目的として、近隣の文化施設等を見学するスタディ・エクスカージョンを実施している。2017年度は、以下の通りである。

・前期のスタディ・エクスカージョン

＜実施日・見学場所＞

2017年5月2日（火）天気：晴れ

砺波チューリップ公園

移動手段：バス

＜参加者数＞

外国人留学生 25人

日本人学生 10人

教職員 4人 合計：39人



2017年5月13日(土) (富山市民俗民芸村にて)

＜実施日・見学場所＞

2017年5月13日（土）天気：小雨

富山市民俗民芸村

移動手段：徒歩

＜参加者数＞

外国人留学生 10人

日本人学生 11人

教職員 4人 合計：25人

※ 現地ボランティアの案内の方：2名

・後期のスタディ・エクスカージョン

＜実施日・見学場所＞

2017年11月18日（土）天気：雨

富山市民俗民芸村

移動手段：徒歩

＜参加者数＞

外国人留学生 2人

日本人学生 1人

教職員 2人 合計：5人

※現地ボランティアの案内の方：1名



2017年11月18日(土) (富山市民俗民芸村にて)

富山市民俗民芸村では、ボランティアの方の案内（説明）を受けることができることがあり、2017年度は2回とも案内していただくことができた。参加者数は、平日であればその時の大学の授業関係、週末等であれば他のイベントの実施などによって左右するが、2017年度の後期のスタディ・エクスカージョンのように、参加者数が少ないときは案内の方の説明を間近に聞いたり質問したりすることができ、中身の濃いものとなった。スタディ・エクスカージョン実施後にアンケートを実施した。アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多かった。「不満」と答えた者はゼロであった。参加学生の満足感は大変高く、この企画が大変好ましく受け止められていることが分かった。また「他にいきたいところ」として立山などを提案する意見があった。

また、エクスカージョンでは、出来るだけ日本人学生と外国人留学生の交流を大切にしたい。参加人

数が多ければ、混合のグループで活動するようにした。

(3) ホームビジットとホームステイ

センターでは、日本語研修コースで学ぶ留学生を対象として、日本の家庭に滞在し異文化体験学習の一環として、ホームビジット（日帰り）またはホームステイ（1泊2日）を実施しているが、2017年度は文科省からの大使館推薦国費留学生、教員研修生、日韓共同理工系学部留学生プログラム（日韓生）の配置がなかったため、日本語研修コースが不開講となり実施しなかった。

(4) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

センターの談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、大学の学生サークル「パートナーズ」（後掲）が外国人留学生と日本人学生の交流を目的として、下のような「交流会」を企画し実施した。

＜日時・参加者数＞

2017年 4月26日（水）15:30～17:30	Welcome Party	参加人数：42人
2017年 6月28日（水）15:30～17:30	Farewell Party	参加人数：49人
2017年 10月25日（水）15:30～18:00	Welcome Party	参加人数：38人
2018年 2月 9日（金）15:30～18:00	Farewell Party	参加人数：35人

4 関係団体との連携と協力

(1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

平成29年度センター教員が直接参加、協力した主な国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
ルンビニ園児との田植え体験	6月10日（土）	富山ライオンズクラブ	参加
遠足 石川県羽咋市	6月11日（日）	富山市民国際交流協会	参加
カンボジア国研修生との交流行事	8月31日（木）	富山県カンボジア協会	参加
ルンビニ園児との稲刈り体験	10月21日（土）	富山ライオンズクラブ	参加
国際フェスティバル	11月12日（日）	富山市民国際交流協会	参加
新年交流会	2018年1月14日（日）	富山市民国際交流協会	参加

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「平成29年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

(2) 関係団体等との連携

国際交流センターと関係諸団体との連携と協力の関係は大変重要であり、そのような意味において、必要に応じて情報交換している。

5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案

内をセンターの談話室に掲示している。海外の大学への留学に関する情報については、談話室の書架およびセンター2階の留学情報資料室を開放し提供している。

6 オリエンテーション

(1) 新規来日新入留学生のためのオリエンテーション

学部、総合情報基盤センター、国際部留学支援課、学務部学生支援課、キャリアサポートセンター等の協力により、全学のオリエンテーションとは別に、新規来日留学生のためのオリエンテーションを実施した。

[前期]

<実施日時・場所>

日時：2017年4月4日(火)9:30～12:00ごろまで(部局ごとに終了)

場所：(五福) 共通教育棟D 11 番教室

(杉谷) 看護学科研究棟 11 教室

(高岡) H棟 2階 CALL 教室

<参加者>

学部生： 25人(五福23人, 高岡2人(うち6人は非正規生))

大学院生： 41人(五福28人, 杉谷11人, 高岡2人(うち2人は非正規生))

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:00～11:45

1) 生活上の留意事項について(国際交流センター)

2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて

(総合情報基盤センター)

3) 学生なんでも相談窓口について(学生支援センター)

4) 就職支援について(学務部就職支援課)

5) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について(学務部学生支援課)

6) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について(国際部留学支援課)

7) その他

(学部ごと) 11:45～12:00(杉谷キャンパスを除く) 各学部からの説明

また、2017年4月26日(水)16:30～15:30, 国際交流センター2F講義室において、来日が遅れた留学生を含む新規来日留学生(非正規生)を対象とするオリエンテーションも別途行なった。

[後期]

<実施日時・場所>

日時：2017年10月18日(水)16:30～部局ごとに終了

場所：(五福) 共通教育棟D 11 番教室

(杉谷) 看護学科研究棟 11 教室

<参加者>

学部生： 36人(五福35人, 杉谷1人(うち34人は非正規生))

大学院生： 21人(五福16人, 杉谷5人(うち10人は非正規生))

<オリエンテーションの主な内容>

内容は前期のオリエンテーションとほぼ同様。

(2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために、時間割作成の支援として、学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所>

2017年4月6日(木)17:30～19:00 共通教育棟C11番教室

<参加者数>

新入留学生 12人, 協力した先輩留学生 18人

7 日本人学生の留学に関する啓発にかかる活動

(1) 「留学のための教養講座」開講

2015年度においては、海外留学を目指している富山大学の学生を対象として、国際交流センター主催の夏季セミナーを2回開催し海外への留学の啓蒙をはかったが、その実績を踏まえ、2016年度に続いて、2017年度も水曜日3限目に教養教育のコロキアム科目(単位は出ない)の授業として「留学のための教養講座」を開講した。講師は、国際交流センターの教員が担当した。

受講者数およびその内訳は以下の通りである。

コロキアム「留学のための教養講座」

(2017年度前期) 8名 内訳:人発(3), 経済(1), 人文(3), 工(1)

(2017年度後期) 11名 内訳:経済(7), 人文(3), 理(1)

(2) 人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」

2016年度に続き2017年度も前期において人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」(コーディネータ:人間発達科学部 橋爪和夫教授)の講義を国際交流センターの教員が担当した。

上記の2つの講義内容は2016年度のシラバスに詳しいが、両授業いずれも「日本(語)文化」と「留学」をキーワードにしたものであった。また、「国際交流活動論」においては、特に卒業後、初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため、昨今の教育現場に外国人子弟が少なくないという状況を鑑みて、日本語教育の視点から講義する部分が多かった。

受講者数および内訳は以下の通りである。

人間発達科学部「国際交流活動論」

(2017年度前期) 20名 全員が人発の学生であった。

学年内訳:4年生(1), 3年生(5), 2年生(14)

(2)-2 人間発達科学部「国際交流活動論」特別講義

富山大学の学生たちの国際交流への理解を深めるため、最終授業(7月25日(火))を人間発達科学部 橋爪和夫教授のコーディネートにおいて、ゲストスピーカーを招いての「特別講義」と位置づけて、以下のように開催した。開催に当たっては学内の各方面に案内を出し誰でも参加できるようにした。講義終了後、留学やアメリカの大学、特にハーバード大学について質問等も出され活発に質疑応答がなされた。

日時:7月25日(火)8:45～10:15

場所:人間発達科学部3棟4階432教室

ゲストスピーカー:Miss Tatyana V. Avilova タチアナ・アビロバさん

(2013年ハーバード大学を卒業、現在はコロンビア大学大学院博士課程に在学中。)

9 その他

(1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体(名称「Partners」)の活動への助言を行った。

10 おわりに

国際交流センターは、その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして、学外の諸団体、地域の方々の温かい理解と協力、多大な支援を頂いている。そのことについて、まずはこの誌面を借りて感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターが発展的に解消し、2013年10月に国際交流センターと名称を変え、従来の外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学上および生活上の指導助言などを行うという役割だけでなく、さらには外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生の海外への送り出しなど、その課される役割は大きく拡大した意味合いを持つように位置付けられた。さらには2018年度の次の改革も練られているようである。今後のセンターに課せられたミッションは大変重いと言えるが、それと同時に、その役割を果たすための課題も浮き彫りとなって来ている。国際交流センターは何をするように期待されており、どのようにそれを行なっていくか、出来ることはどのようなことか等を今一度整理する必要があるのではないだろうか。そして、専任教員5人という布陣は留学生センターの時からまったく変わっておらず、この人材で限られた予算等と向き合いながら、役割や業務についての全学的な認識に基づき、努力をしていくのみである。